

# 新生「海洋科学高校」の校歌を編曲

## 開校記念式典でお披露目の合唱



▲ 校歌の楽譜

小林明頼代表(商3)は「新井校長のオリジナルは大海原をイメージするような穏やかな曲。高校生たちが気持ちよく歌えるよう



▲ 校歌を披露するグリークラブ(円内は新井校長)

井校長。グリークラブは、12月に1年間の活動の「集大成」となる定期演奏会を開催するほか、入学式での校歌指導や学外での活動も活発に行っている。4パート(ト

男声合唱団グリークラブが、4月に誕生した神奈川県立海洋科学高校(横須賀市、生徒数480人)の校歌を編曲した。同クラブは10月10日、同高校で行われた開校記念式典で教職員、生徒や来賓を前に合唱して披露。盛大な拍手を浴びた。

### グリークラブ

「カッコよく」仕上げよう。それがメンバーの一致した意見でした」と振り返った。

この高校は今年4月、海洋科学を総合的に学ぶ専門高校として三浦水産高校が生まれ変わった。本学校友である新井由紀男校長(昭48文)が自ら作曲した校歌(歌詞・島山信也)一般公募による)の編曲を「どこ

なるとは思いませんでした」と完成度の高さに驚いた。4月末、ハワイ沖での実習に向かう遠洋航海出港式で最初の校歌斉唱が行われたが、「生徒が胸を張って口ずさんでいるのを見て、これはいいものになったと実感しました」(新井校長)。

# 科学掘削船「ちきゅう」で「地球の謎」を解明しよう



佐藤 暢 経営学部准教授

9月26日から28日まで、科学掘削船「ちきゅう」を舞台に開催された、学生・大学院生を対象とした船上研究経験スクール(以下「ちきゅう」)に参加するた

9月26日早朝。佐世保港の棧橋を出発しておよそ30分。小さな岬を回ると、目の前に100以上の櫓を持つ船が現れた。総トン数5万7000トンの、日本が誇る世界最大の科学掘削船、「ちきゅう」である。2泊3日の日程で開催される「ちきゅう」船上研究経験スクールに参加するた

## 寄稿

海洋掘削小史  
幻の「モホール計画」とは  
1950年代、数人のアメリカ人科学者が半ば冗談で、地殻を掘り抜き、マンホールに到達する孔を掘ろう、という計画を立てた。地震波によ

# 巨大地震のメカニズムは？

## 地下生物圏の広がりは？

一方、同じころ、海洋掘削によって地球科学上の諸問題を解明するため、アメリカの4つの海洋研究所と大学が中心となって深海掘削計画(DSDP)を開始した。DSDPでは後にプレートテクトニクスへと発展する海洋底拡大説を実証するなど、多くの成果を挙げた。日本もDSDPの後半から参加し、85年から海洋掘削計画(ODP)では中心的な役割を



▲ スクール修了証を手にする鈴木さん(左)と北澤さん(右)

底から採取された試料で作られた仮想試料を用いて、堆積物・古生物学・地球化学・岩石学の4人の講師の指導のもと、研究体験をした。海洋掘削で重要なことは、採取試料をきちんと観察し、特徴を明らかにすることである。詳細な観察に基づいて「海上の実験室」とも呼ばれる「ちきゅう」上の、陸上施設に劣らない、最先端・高精度の分析装置で、更に試料の特徴を探っていく。スクールでも、顕微鏡観察のほか、地球化学用の装置を用いた分析などを体験した。「ちきゅう」は佐世保港内に投錨中であつた船上で、将来の海洋研究を担う学生や大学院生に、船上での研究を体験してもらおう、という主旨で開催された「ちきゅう」船上研究経験スクールには全国から20人以上の学生が集まり、専修大学からは、教養ゼミナール「地球科学実習」履修者の鈴木木奈子さん(文4)と北澤陽さん(経営3)が参加した。「ちきゅう」がマンホールに到達する掘削に成功し、念願でしか見たことのない「ちきゅう」に乗船して、



世界最大の科学掘削船「ちきゅう」。全長210m。中心部の高さ130mの櫓からパイプをつなぎ下ろし、海底下7mまでの掘削が可能



▲ 堆積物のコアを記載する北澤さん。コアの特徴を一番正確に観察できる分析装置は「肉眼」

果たした。ODPの目標の一つである。絶滅した時代の環境変動の解明などが挙げられる。90年代に入ると、より大水深で、より深くまで掘削したいという科学者の声が高まってきた。例えば、

スラスター(一般の船のスクリューに相当)の修理のために佐世保港に入港中の「ちきゅう」の船上で、将来の海洋研究を担う学生や大学院生に、船上での研究を体験してもらおう、という主旨で開催された「ちきゅう」船上研究経験スクールには全国から20人以上の学生が集まり、専修大学からは、教養ゼミナール「地球科学実習」履修者の鈴木木奈子さん(文4)と北澤陽さん(経営3)が参加した。「ちきゅう」がマンホールに到達する掘削に成功し、念願でしか見たことのない「ちきゅう」に乗船して、

「ホール計画」と名付けられた。61年の最初の掘削で海底の玄武岩を採取する「メカニズム」や「地下生物圏」と呼ばれる世界は、どこまで広がっているのか、等々。それまでの国議会で計画の中止が決